

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	令和 5年3月27日
------	--------	-----	------------

1 学校目標	
<p>「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。</p> <p>②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。</p> <p>③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。</p> <p>④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策を十分に行いながら、教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。</p> <p>(1) 自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の充実や専門領域の基礎基本を身につけ、資格検定への積極的な挑戦を促す。</li> <li>仲間とともに学ぶ喜びを感じると同時に「学ぶ責任」があることの意識を高める。</li> <li>インターシップや企業・上級学校見学等を通して、ふるさとで働き、学ぶ意識を高める。同時に勤労観・職業観を育成し自らのキャリアを設計する基礎を育てる。</li> <li>高校生として「見られる自分」を意識しながら、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開く意欲と素直さを身につけさせる。また、自身の命を守る意識を醸成し、先の危険を読み取る行動が取れる力を養う。</li> <li>教職員が方向を揃え保護者や地域と連携し、明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。</li> </ul> <p>(2) 協同の学びで自他を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す。</li> <li>小中学生や県民に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする。</li> <li>地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる。</li> </ul>	<p>◎生徒1人あたりの資格等受検率（受検数／生徒数）に大きな変化は見られなかったが、全体の合格率は昨年度より少し向上した。</p> <p>受検率 R3 : 2.68 → R4 : 2.56 合格率 R3 : 59.7% → R4 : 63.5%</p> <p>◎2年生のインターンシップは、3年ぶりに例年通り4日間の日程で事業所にて就業体験ができた。1年生は上級学校・事業所見学を実施した。取組を通してキャリア形成能力の向上に努めることができた。</p> <p>◎Google Workspace におけるチャット機能の活用など、職員間の情報共有を効率的かつ効果的な方法で推進できた。</p> <p>◎学習成果を地域に発信する「湖陵フェスタ」は、例年より規模を縮小した形にはなったが、生徒の保護者や地域の方を招いて実施することができた。</p> <p>◎食品システム科の生産物販売、緑地デザイン科の小学校・特別支援学校との園芸交流、人間環境科の介護施設における実習、情報科学科の小学生とのプ</p>

<p>・障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む。</p> <p>・特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う。</p> <p>(3) 学びを創造する力を高める教育の推進</p> <p>・実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する。</p> <p>・ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。</p> <p>・BYODの成果と課題を検証し、「一人一台端末」を有効に活用した学習環境を実現する。</p> <p>・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。</p> <p>・専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>○取得資格の目安・・・資格取得・検定数(卒業までに3個以上)</p> <p>○難易度により3段階に分けた資格や検定に計画的かつ継続的に資格取得や検定合格に臨む。</p> <p>ベーシックを基礎として、1年から2年時の取得を目指す・・・概ね受験者の70%以上の合格を目標とする。</p> <p>アドバンス、スペシャルは、2年後半から3年前半にかけて取得を目指す・・・概ね受験者の50%以上の合格を目標とする。</p>	<p>プログラミング交流など様々な形で異世代や障がいのある方との交流ができた。交流を通して「ふるさと」や「地域の人々」を思いやる気持ち、「地域」に貢献する姿勢を高めることができた。</p> <p>◎1年生へのChromebookの配布により、ICT活用環境が整い、様々な授業等に活用することができた。各科目においてクラスルームの構築・活用が進み、オンライン学習が積極的に行われた。</p> <p>◎共通教科、専門教科の両方で積極的にICT活用や協同学習を進め、相互作用として生徒の学習意欲向上が見られた。</p> <p>&lt;数値結果&gt;</p> <p>◎生徒1人あたりの年間資格検定等取得数は昨年度に比べわずかに増加している。人数の差もあるので単純に比較はできないが、学年が上がっても資格取得に挑戦し成果につなげる姿勢が見られた。段階別合格率は目標には届かなかったが、昨年度より上昇が見られた。</p> <p>&lt;生徒1人あたりの年間資格検定等取得数&gt;</p> <p>R2:1.59 → R3:1.59 → R4:1.62</p> <p>&lt;学年別合格者数(のべ人数)&gt;</p> <p>R3:1年:409 2年:263 3年:83</p> <p>R3:1年:408 2年:248 3年:101</p> <p>&lt;段階別合格率&gt;</p> <p>ベーシック R3:61.5% → R4:64.9%</p> <p>アドバンス R3:40.2% → R4:49.0%</p>
<p>3 実施事業</p>	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>・外部人材活用事業(社会人講師活用、高校・大学教員交流) &lt;全科15講座実施&gt;</p> <p>それぞれの専門分野の講師から直接、知識や技術を学ぶことで専門性の深化と応用を図る。また、地域と連携するなかで地域産業への理解を深め、地域課題の解決能力を身に付ける。</p> <p>◎各学科において、12の講座(社会人講師10、高校・大学教員交流2)を実施することができた。地域で活躍する各専門分野のスペシャリストによる講座は、社会とのつながりを強く意識し、生徒の学習意欲向上につなげることができた。</p> <p>・「ようこそ高校へ」キャリア教育充実事業</p> <p>キャリア教育を推進するため、学年別に目的を明確にし、事業を実施する。良き社会人、社会の構成者を目指すためにも高校生活を充実させ、常に基礎学力の向上を図ることが大切であることを理解する。</p> <p>1年生:進路ガイダンス 建設業・建築業に関する講話</p> <p>3年生:進路セミナー 働くときのルール(就職)、高校生のために消費者講座(進学)</p> <p>◎1年生は進路ガイダンスをキャリア塾として実施し、3年生は進路分野別に実施した。特に3年生は、社会人として生きていく視点を学ぶことができた。</p>	

・東部地区専門高校協同企画「ふるさと専門高校フェスタ」 (チャレンジサポート事業)

「ふるさと手づくりまつり」で培われた鳥取県東部地区に深く根付いた「ものづくりの文化」を専門高校の生徒が主体となって幼児、小・中学生に伝承していく。また、各専門高校の学習内容を多くの県民の皆様を知っていただけるよう「ものづくり」体験の充実を図り、一人でも多くの方に、ものづくりや専門高校に興味・関心を持っていただきたい。

企画・運営等は、生徒実行委員会を立ち上げ生徒が中心になって実施する。令和4年度の事務局を、昨年度に続き鳥取湖陵高校が担当する。

◎7月にわらべ館にて「ふるさと専門高校フェスタ」と題して実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により体験講座を実施直前に中止とした。しかし、専門高校4校の取り組みを紹介するパネル展示をわらべ館にて約2週間実施できた。見学者の手に取ってもらう展示を増やすなどして、農業、工業、商業、家庭、情報のそれぞれの分野の魅力を子どもたちに伝えることができた。

**【独自事業】**

(1) 自立する力

・インターンシップ事業 <全科2年生>

東部地区の学校・企業・施設等において、本校で学んだ専門教育等の学習成果を発揮するとともに、勤労観・職業観の育成や社会との関わり方、自分自身の素養をみつめる機会として実施する。

◎東部地区60カ所の事業所にお世話になり、就業体験を実施した。体験終了後には、各学科別に報告会を行った。実施後のアンケートにおいて、97%の生徒が体験して良かったと回答した。また、多くの生徒がコミュニケーション能力の足りなさを実感していた。体験先のアンケートでは、礼儀・挨拶に必要性をあげる回答が多くあった。生徒自身充実感を感じるとともに、今後の様々な能力向上につながる取り組みとなった。

・キャリア形成能力育成事業 <全科1年生>

県内の上級学校や関連企業の見学をとおして、地域教育や地域産業について理解する。また、実際に働いている方や施設や設備の様子から、自分自身の働いている姿を想像し、将来の進路選択に役立てる。

◎鳥取短期大学、公立鳥取環境大学、鳥取県立農業大学校、(株)正光など多くの地元教育機関、企業に協力していただき、実施できた。生徒自身の今後の進路探究活動に活かせる取り組みとなった。

・専門技能育成事業

①技能五輪全国大会・若年者ものづくり大会 <緑地デザイン科>

標記大会への出場を目指し、学習を積み重ね、生徒の意欲向上や専門技術の向上を図る。

②フラワーデザインの技術向上 <緑地デザイン科>

プリザーブドフラワーの作品を制作、展示し校外に学習内容をPRする。

③庭園の設計・製作と出展 <緑地デザイン科>

協力して作庭し、連帯感などを育む。多くの方が来場する会場に展示し、成果を発信する。

④緑地デザイン科技術講習会 <緑地デザイン科>

「造園技術検定」、「フラワー装飾技能検定」の実技練習を実施し、合格率の向上を図る。

⑤持続可能な土づくり <食品システム科>

農場で発生する植物残渣を処理施設に持ち込み、たい肥化し本校農場で使用する。

⑥AIプログラミングコンテスト <情報科学科>

全国の情報学科が競うコンテストへの参加を通して、実践的な活用能力を高める。

◎①～⑥すべての事業において、概ね計画通り実施することができた。フラワーアレンジメント全国大会に出場するなど大きな成果を遂げたものもあった。

・湖陵版資格スタンダード事業 <全科全学年>

各科で重点的に取り組む資格を生徒にわかりやすく説明するため、専門科目や特に重要視する部分を明示し、学習意欲の向上や課題研究への接続を円滑にすることを目的とする。資格の見える化を図り、教科指導の充実や生徒の資格取得をしっかりと支援する。

◎情報科学科が、香川県立坂出商業高等学校情報技術科の視察を行った。商業高校だけあって綿密な計画のもと、生徒の現状に合わせた資格取得に向けた取り組みを行っておりとても参考になった。

・基礎学力養成事業 <全科全学年>

夏季休業中に大学生等を招き、生徒への学習を支援してもらうことで、より効果的な学力の定着を図ることを目指す。

◎生徒43名が3日間、学習習慣の定着と基礎学力の向上を目的として参加し、専門分野をより深めるために大学進学を検討する生徒が増えるなどの成果が見られた。

(2) 協同する力

・ふるさと交流事業

①地場産プラザ「わったいな」における生産物販売実習 <食品システム科>

校内で栽培・加工した生産物を直売センターで販売することで、流通・販売までを総括した学習を実践する。土曜日に実施することで、本校の教育内容を多くの県民にアピールするとともに販売技術や接客マナーの向上につなげる。

②小学校・特別支援学校等との園芸交流 <緑地デザイン科>

異世代との園芸を通じた交流を行い、習得した技術、コミュニケーション力向上を図る。

③RCカー・ロボット・工作で世代間交流 <電子機械科>

わらべ館や地域の各種イベントとの連携、学校独自にRCカーやロボットを使った展示イベントやRCカーの走行会、工作のワークショップを運営する。

④福祉交流体験 <人間環境科>

鳥取医療センター重症心身障がい者施設等において、障がい者自立支援活動体験、重症身体障がい者介護体験、音楽セラピーの実施等に取り組む。

⑤iPad・プログラミング交流 <情報科学科>

特別支援学校を対象としたiPad活用支援交流や地域の小学生を招いてのプログラミング交流授業を開催する。

⑥園芸セラピー <全科全学年>

ボランティア部を中心に利用者の方と草花や作物の栽培、フラワーアレンジメントなどの作品作りを行う。

◎④以外の事業は概ね計画通り実施することができた。④については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、現場体験はできなかったが、現場の方に講師としてきていただくなどの工夫を行った。⑥については、福祉分野への進路実績につながるなどの成果が見られた。

・魅力発信事業

①中学生体験入学

中学3年生に本校の特徴である総合選択制や教育内容を理解してもらうことを目的とする。各科および各コースの実習内容を体験してもらう。

②中学校出前授業

主に中学1・2年生を対象に、本校教員・生徒が中学校へ出向き、専門高校の各学科の基礎的な体験を通して専門高校への理解や興味・関心を深めてもらう。

◎①「中学生オープンスクール」と題して、夏期休業中に2日間実施した。限られた時間であったが、中学生にすべての科の取り組みを知ってもらうこと、関心のある学科の体験を行ってもらうことができた。2日間で計400名近い参加があり、事後アンケートの結果において、「学校の特色理解が深まった」が全体の94%となるなど多くの中学生に学校理解を深めてもらうことができた。

②3つの中学校において実施することができた。5つの学科すべてが参加できなかったが、参加した教員は、自学科の学習内容を中学生にわかりやすく伝え、興味・関心を持ってもらうことができた。

・湖陵フェスタ事業

本校専門教育の学習内容や教育環境を広く県民に周知するとともに、教育内容改善の一助とするもので

ある。地域との連携はもちろん、中学生や保護者の本校教育内容の理解の促進に資する。また、この取り組みの準備や販売・展示を通して、生徒の学習意欲の向上につなげる。

◎開催案内の幅広い周知はできなかったが、3年ぶりにお客様を招いて実施することができた。生徒の保護者が中心であったが、483名の来場者があった。生徒の学習成果を保護者や地域の方に発信するという最大の目的は概ね達成できた。来場者アンケート結果において、93%の方が「良い取り組みである」と答えており、学校理解に加えて来場者に満足してもらえたイベントになった。

### (3) 創造する力

#### ・実践による創造力向上事業

##### ①JGAP <食品システム科>

令和元年にJGAP審査を受け、認証された。維持審査を令和4年6月に予定している。

##### ②HACCP <食品システム科>

鳥取県版HACCP認証鳥取湖陵ブランド食品（湖陵オリジナル「とっておきいちご」天然酵母パン）の開発を行う。

##### ③鳥大前駅フラワー装飾 <緑地デザイン科>

駅構内の壁面に花壇装飾を設計・制作し、学習内容の成果をPRする。

##### ④学校緑化プロジェクト <緑地デザイン科>

学校敷地内に庭園や樹木園を設計・施工し、緑化を図るとともに学習成果を発揮する。

##### ⑤ふるさと鳥取の環境保全 <緑地デザイン>

湖山池を題材として生物調査を行い、環境の変化を考察する。そして、環境保全のためにバイオテクノロジーの技術を活用する。

##### ⑥レゴロボットによるプログラミング教育 <電子機械科>

国際的ロボットコンテストWRO大会への参加を通して学習内容の深化を図る。

##### ⑦AVRマイコンを用いたIoT学習 <電子機械科>

電子回路・機械加工などの知識・技能を活用して、身近にあるIoT機器の製作を行う。

##### ⑧ファッションショー <人間環境科>

「ファッション造形基礎」の授業の成果発表として、学校祭でファッションショーを開催する。

##### ⑨鳥取県の魅力発信事業 <情報科学科>

鳥取県食のみやこ推進課と連携し、地元デザイナーに助言をいただきながら、本県ノベルティグッズを制作する。

##### ⑩スマート農業 <緑地デザイン科・電子機械科・情報科学科>

工業、情報、農業科が連携し、小型コンピュータ（ラズベリーパイ）を活用して、湖陵版スマート農業に取り組む。

##### ⑪起業家教育事業 <農業学科>

各種緑化フェアなどのイベントや地場産プラザ「わったいな」で販売実習に取り組む。

◎①予定通り審査を実施し、来年度に向けて着々と準備を進めている。

②予定通りイチゴの栽培からパンの開発、制作を行うことができた。

③計画通りに年2回設計・制作できた。

④設計・施工に加え、検定取得学習につなげることができた。

⑤教員配置数の不足もあり十分な実施ができなかった。

⑥県内予選を勝ち抜き全国大会出場できた取り組みとなった。

⑦「課題研究」において十分な取り組みができた。

⑧学校祭では実施できなかったが、別日の開催で保護者を招いて実施できた。

⑨地産地消ミニのぼり制作、鳥取県PRポスターの制作を行った。

⑩電子機械科の「課題研究」を中心に栽培管理システムの制作を行い、来年度稼働に向けた取り組みとなった。

①花のまつりや「わったいな」における販売実習（年4回）などを通して起業家としての意識を高めることができた。

・指導力向上事業 <食品システム科>

東洋食品工業短期大学の社会人育成講習会の食品総合技術コースを受講し、食品分析技術、食品製造技術、密封技術を習得し、加工食品製造現場における「総合的なマネジメント能力」を身に付け本校の食品製造実習に活かす。

◎食品システム科の教員1名が3週間受講した。食品製造の基礎知識・加工技術、食品容器に関する知識、密封技術・技能、食品の安全管理などについて学ぶことができた。今後の授業・実習において成果を発揮する予定である。

#### 4 総合所見（成果・評価）

「専門人材育成重点校」として、主に「学校独自事業」における様々な取り組みを通し、地域産業を支える人材育成を積極的に行うことができた。新型コロナウイルス感染拡大対策を行いながらインターンシップや湖陵フェスタを実施でき、生徒は普段の学習成果を発信することによる達成感や専門教育の重要性を感じることができた。

目標の1つである資格検定取得向上の取り組みについては、飛躍的にとまでは言えないが、合格率の向上が見られた。資料配付や学習サイトの活用などタブレット端末の使用が良い結果につながっていると考えられる。また、各事業の学校HPにおける迅速な情報発信が、生徒の意欲向上につながっている。

※枚数任意